

新村 沙里惟

富山県立にいかわ総合支援学校

(社会人4年目)

【取材日：2025.12.17】

子どもたちの「できた！」を支える

現在のお仕事について教えてください

特別支援学校中学部で1学年の担任をしています。ひとりひとりの障害特性や発達段階に応じた学習・生活指導を行っています。日々の関わりの中で、「できる」という成功体験を積み重ねて、意欲的に活動できるよう支援しています。日常的に生徒ひとりひとりの良いところに気付けるよう、心掛けています。

富山大学で学ぶきっかけ

高校生の時に、明確にやりたいことが見えていませんでした。文系の中で人文系と社会系を考えたときに、富山大学の人文学部は入学後にコース選択をできることに魅力を感じました。実家から通うことができ、経済的負担が少ないことも魅力でした。

サークル活動で地域との繋がりに楽しさ

高校生の時から、富山市総曲輪の富山まちなか研究室「MAG.net(マグネット)」というフリースペースで自習をしていました。マグネットは富山大学の「街なかメイクアップサポーター」というサークルの活動拠点でもあり、大学入学後サークルに参加しました。街なかの活動で地域の人や社会と触れる楽しさを感じ、大学の専門コース選びは「社会文化コース」に進みました。

Profile

富山県出身。富山県立富山高等学校出身。2017年、富山大学人文学部に入学。街なかメイクアップサポーターの活動で総曲輪地区のイベント運営を経験。地域と繋がる楽しさを感じ、人文地理の研究室を選択。2021年4月、富山県立にいかわ総合支援学校で教員としてのキャリアをスタート。生徒の成長にやりがいを感じている。卒業後も恩師の大西教授とは連絡を取り合う仲。

大学で出会った恩師

2年次以降に大西宏治教授の人文地理学研究室に所属しました。同じ分野を学ぶ心強くて愉快的な仲間や、教授の方々には大変お世話になり、豊かな大学生活を送ることが出来たと思っています。大西先生とは、サークル活動でも顧問としてお世話になり、卒業後の今でも連絡をとりあえる間柄です。

憧れの先生を目指して

大学2年次から教員免許を取得しようと考えようになりました。思い返すと小学校の時は小学校の先生に、中学校の時は中学校の先生に憧れていました。実習を進める中で憧れとのギャップがそこまで無いと感じ、自分には向いているのかもしれないと思いました。これまでの人生で、素晴らしい先生方と巡りあってきたことが今の私の土台になっています。常に学び続けながら、生徒に寄り添い、成長を支えられるような教員になりたいです。

高校生へのメッセージ

受験の際は、大学に入ることが目下の目標になりがちですが、大学に入ってからがスタートだと、高校時代の先生に言われました。「どこへいくか」も大事ですが、「何をするか」「何をしたいか」を探しに行くことが出来るように、幅広い視野を持てるとよいかと思います。大学進学を考えている人はとりあえず勉強を頑張るのみ・・・と思うかもしれませんが、どんな道に進んでもこれからたくさん素敵な出会いや学びが待っています。